

南伊勢町総合計画 基本計画の6月4日現在の案から
7月2日現在の案（最終案）への主な修正箇所

（ページ数は7月2日現在のページ数となります。）

ページ	修正前	修正後
目次、 P2,P13	子育て応援プロジェクト	子育て・子どもの育ち応援プロジェクト
P2	<u>新しい幸福の形：実質「1万人規模の活力」の維持</u> 私たちが目指すのは、定住人口の多寡のみに依存しない「実質1万人規模の活力」の維持です。 ・ 居住人口 5,000 人：コンパクトながら多世代が支え合い、誰もが住み慣れた地域で誇りを持って住み続けられる基盤を維持します。 ・ 関係人口 5,000 人：町外の人材を単なる来訪者（ゲスト）ではなく、共に未来を創る「パートナー」として再定義します。特定の二地域居住や大学連携等を通じ、<u>知恵と活力が町の内外で循環する「《拡大》オール南伊勢」を実現します。</u>	<u>私たちがめざす、実質「1万人規模の活力」</u> 私たちが目指すのは、定住人口の多寡のみに依存しない「実質1万人規模の活力」の維持です。 ・ 居住人口 5,000 人：コンパクトながら多世代が支え合い、誰もが住み慣れた地域で誇りを持って住み続けられる基盤を維持します。 ・ 関係人口 5,000 人：町外の人材を単なる来訪者（ゲスト）ではなく、共に未来を創る「パートナー」として再定義します。 <u>この「外の仲間 5,000 人」を生み出すのは、ここに暮らす「私たち 5,000 人」自身です。私たち一人ひとりには、町外で暮らす子どもや孫、親戚、そしてこの町を大切に想ってくれる友人がいます。いま暮らす 5,000 人が、それぞれの「大切な家族や仲間」と温かくつながり、この町に呼び</u>

	この「5,000 人+5,000 人=1 万人」という数字は、「4 年後に達成すべきノルマ」としてではなく、「2045 年の幸福な未来から<u>逆算（バックキャスト）</u>した際に、町が活力を維持するために必要な規模感」として提示するものです。 <u>この指針を本計画の全てのプロジェクト（重点 1～7）を実施した先の 2045 年の到達点として据え、住民一人ひとりが「南伊勢町に住んでいて良かった」と幸福を実感できる独自のライフスタイルを確立します。</u>	<u>込んでいく。それだけで、もう一つの 5,000 人の輪は自然と生まれます。</u> この「5,000 人+5,000 人=1 万人」という数字は、「4 年後に達成すべきノルマ」としてではなく、「2045 年の幸福な未来から<u>逆算</u>した際に、町が活力を維持するために必要な規模感」として提示するものです。<u>町民も、町外の家族も、ファンも、みんながひとつのチームになる「オール南伊勢」の力で、私たちはこれからもずっと、元気で輝き続けます。</u>
P3~P6	4. 「希望」としての人口 1 万人規模の維持 居住人口 5,000 人に、町を愛する関係人口 5,000 人を加えることで、現在の 1 万人規模と同等の社会活力を維持します。 ・ <u>マインドの転換：人口減少を「回避困難な絶望」としてではなく、「新しい幸福の形」を追求するバックキャストिंगの契機と捉えるようになります。</u> ・ <u>持続可能なインフラ：5,000 人の住民だけでなく、5,000 人の関係人口が頻繁に活動することで、二次交通や商店などの生活サービスが維持・最適化されやすくなります。</u>	4. 「希望」としての人口 1 万人規模の維持 居住人口 5,000 人に、町を愛する関係人口 5,000 人を加えることで、現在の 1 万人規模と同等の社会活力を維持します。 <u>すべてのプロジェクトの先に据える到達点としての戦略的指針</u> <u>居住人口 5,000 人に、町を愛する関係人口 5,000 人を加えることで、現在の 1 万人規模と同等の社会活力を維持する。この戦略的指針は、本計画のすべてのプロジェクト（重点 1～7）を実施した先の 2045 年の到達点として据えるものです。</u> <u>内も外も、すべての力を結集する「オール南伊勢」の絆が</u>

	<u>関係人口 5,000 人を抱える町は、居住人数という数字上の制約を超え、「町に関わる全ての人の力を結集（オール南伊勢）して輝き続ける」、活気ある社会となります。</u>	<u>あれば、この町はどんな未来が来ても動じない、活気ある社会となります。住民一人ひとりが「南伊勢町に住んでいて良かった」と幸福を実感し、私たちの元気で輝き続ける姿を、次の世代へとしっかりと繋いでいきましょう。</u> <u>戦略的指針で示す 2030 年～2045 年のめざす姿</u> <u>各期におけるビジョンは、具体的施策を通じて構築される「出来ている姿（成果）」と、それによって住民の暮らしや心にもたらされるプラスの変化である「めざす指針（効果）」のふたつの視点から整理しています。</u> <u>町外のパートナーとの協働やオンラインによる可能性を最大限に活かし、5 年ごとに確かな歩みを進めていくための指針とします。</u>
--	--	--

【5年後：2030年】いまある「濃い絆」が、外の人をも巻き込む

出来ている姿（成果）

週末のたびに子や孫が親の元を訪れ、祭りには懐かしい願いが勢ぞろいする——そんな南伊勢の温かい風景に、都市部の大学生や研究者たちも加わり始めます。

町民の深い人情（お節介）に魅了され、縁もゆかりもない「外の人」までもが地元の祭りに混ざって笑い合っています。この「通ってくれる仲間」の輪が、着実に町全体へと広がります。

めざす指針（効果）

私たちが手にするプラスの変化

最高の魅力の再発見

外の人から届く「この町が、本当に大好き」という言葉。この町が本来持っている「人の優しさ」や「海・山の豊かさ」こそが最高の魅力だと再発見していきます。

誇りと喜びの広がり

地域の宝を再認識したとき、私たちの中に「この町に暮らしていてよかった」という確かな誇りと喜びが広がっていきます。

【10年後：2035年】「よそ者」から、わが家の「近所の人・仕事の相棒」へ

出来ている姿（成果）

町を好きになって通い詰める「外の仲間」がさらに増え、関係は家族のように深まります。地元の人から外の人を自分の孫のように可愛がり、時には「こらっ、あかんぞ」と本気で叱る。そんな温かくも遠慮のないお付き合いがあちこちで日常になります。

さらに、オンラインを通じた共同チームが始動し、都市や海外のプロがマーケティングの「仕事の相棒」として機能し始めます。そして、そんな深い関わりの中で出会い、結婚し、南伊勢で新しい家庭を築く人も現れます。

めざす指針（効果）

私たちが手にするプラスの変化

家族が戻ってくる賑やかさ

楽しそうな地元の噂を耳にした都会の子や孫たちも、「みかんの手伝いに帰ろうか」と、さらに気軽に足を向けるようになります。

まちの成長への手応え

外の知恵と地元の技（底力）が混ざり合うことで、「人口が減ってもまちは成長できる、暮らしていける」という手応えのもと、私たちの暮らしがさらに生き生きと輝き始めます。

		【15年後：2040年】「ゲスト（来訪者）」から「共に未来を創る『パートナー』」へ 出来ている姿（成果） かつて祭りで汗を流した仲間や、専門人材のパートナーが、地元の農家や漁師の頼もしい「相棒」になります。 彼らが持ち込んだ先端技術がゴミ出しや移動を賢く助け、温かい訪問と技術がセットになった「最新で最良の支え合い」が当たり前になります。 めざす指針（効果） 私たちが手にするプラスの変化 住み慣れた家で暮らせる安心 たとえばバスの路線が減ったり、ゴミ出しが大変になったりしても、デジタルの力と仲間たちの「温かい訪問や声かけ（人のやさしさ）」があるから、誰もが安心して暮らし続けられます。 暮らしをデザインする納得感 住民一人ひとりが外部の知恵を借りながら、「自分たちの手で暮らしをデザインしている」という納得感を持っています。 20年後：2045年】「憧れの連鎖」が支える、実質1万人規模の活力 出来ている姿（成果） 人口は5,000人となりましたが、SNSやアプリを開けば「今日元気？」「みかん実ったよ！」と温かい声が行き交い、物理的な「疎」を強固な人間関係で補完します。 かつて一度町を離れた若者や、当時学生として関わった仲間たちが町の中心となって活躍し、その背中を見て育った次の世代が「あの大人たちのようにになりたい」と町に残る、そんな「憧れの連鎖」が生まれています。 めざす指針（効果） 私たちが手にするプラスの変化 最高の学びの場があるまち 子どもたちは、いつも見守ってくれる「地元の温かい大人たち」と、全国から集まる「多様な大人たち」に囲まれ、町を最高の学びの場と感じて育ちます。 世代を超えて続く安心感 「若者や女性に選ばれる町」として、最新の養殖技術や多様な複業、そして「確かな1万人の活力」が土台となります。将来にわたって町が安定して続いていくという揺るぎない安心感の中で、私たちは笑顔で暮らし続けています。
--	--	---

■戦略的指針・到達の目安（ロードマップ）

2045年の姿はこれからの取り組みによって変化します。よって本指標は達成指標ではな

■戦略的指針でのロードマップの到達の目安として示します

区分	2030年 (5年後)	2035年 (10年後)	2040年 (15年後)	2045年 (20年後)
1. 人の活力 (住民＋パートナー)	8,350人規模 ・住民：7,852人 ・パートナー： 500人 ※ふるさと住民 登録・アクティ ブ協働数。まず は個人のコアフ ァンを確立	8,200人規模 ・住民：6,728人 ・パートナー： 1,500人 ※世代継承：登録 者の家族や子ど も達を「次世代パ ートナー」として 巻き込み	8,800人規模 ・住民：5,787人 ・パートナー： 3,000人 ※ふるさと化： 成長した子ども 達が自発的に関 わる、多世代ネ ットワーク化	10,000人規模 ・住民：5,000人 ・パートナー：5,000 人 ※1万人規模の経済 圏：通い、オンライ ンで関わり続ける 「実質1万人規模の 活力」の完成
2. 新しい仕 事(成業・稼 ぐ力)	・新規起業：12件 ・一次産業新規 就業：16名(※共 に5年間の累計 合計)	・「若者発」起業： 3件(※5年間の 累計合計) ・複業的農林漁 業公認：50世帯 (※2035年時点の アクティブ総数)	・先端技術導 入：20件(スマー ト水産業・AI ・陸上養殖 等)(※2040年時 点の総導入数)	高付加価値産業比 率：30%【住民5,000 人＋パートナー 5,000人】
地元現役世 代のメリッ ト	「質のいいも の」を作る環境 を整備。町内に いながら自分で 稼ぎを生み出す 土壌が整いま す。	都市・海外のプロ と「共同チーム」 を結成。画面越 しでマーケティングを任せ、地元 の資源を活かし ます。	現場管理がオン ライン化。体力 的負担を減ら し、南伊勢での 暮らしやすさを 確保します。	市場は都市・海外 へ。最高に住みやす い環境で暮らし、仕 事はオンラインで 世界から外貨を稼 ぐスタイルも定着 します。
3. 誇りと自 然(シビック プライド)	・町の魅力浸透 度：50% ※まずは町内 外へ、南伊勢の ポテンシャルと 「住みやすさ」 の価値を正しく 届ける	・子供の提言実 現率：70% ※大人が真剣に 声を聴く姿勢が、 子どもたちの町 への信頼感の土 台になる	・環境保護活動 参加率の向上 ※世界に誇る 美しい海や自然 を、自分たちの 手で次世代へ守 り継ぐ意識の高 まり	「将来もこの町暮 らしていける」と思 う子供：70% ※「ここで暮らし たい」と若者が誇り を持って選ぶ町へ

P8	・漁師塾や一次産業後継者等育成事業を実施し、学ぶ・体験する機会の創出や魅力発信を通じて担い手をつくります。[中学生提言] ・柑橘栽培などにおける作業時間の柔軟性を活かした『副業的農業』を推進し、育児や他業種との両立など、多様なライフスタイルに応じた就業形態の確立と担い手確保を支援します。また、地域と連携した就農希望者への農地マッチング機能の強化や専門知識を持つ相談員等による就農・経営伴走支援体制を強化します。 ・ふるさと教育や社会教育等を通じ、子供たちが産業の意義を肌で感じ、自発的に「産業の担い手になりたい」と思える学習機会の創出を進めます。		・漁師塾や一次産業後継者等育成事業を実施し、学ぶ・体験する機会の創出や魅力発信を通じて担い手をつくります。[中学生提言] ・県のスタートアップ支援や中小企業診断士の派遣制度などを活用し、町の水産業・農業者の法人化や共同体としての組織強化、専門家による継続的な伴走的サポートを行い、次世代へ継承可能な経営基盤を確立します。 ・専業・副業という枠組みにとらわれず、複数の生業（なりわい）を組み合わせる「複業的農業・漁業」を推進し、多様な人材が一次産業に関われる環境を整えます。特に、柑橘栽培などにおける作業時間の柔軟性を活かし、育児や他業種との両立など、多様なライフスタイルに応じた就業形態の確立と担い手確保を支援します。また、地域と連携した就農希望者への農地マッチングや、専門知識を持つ相談員による経営伴走支援の体制を強化します。 ・ふるさと教育や社会教育等を通じ、子供たちが産業の意義を肌で感じ、自発的に「産業の担い手になりたい」と思える学習機会の創出を進めます。	
P8	実施事業	施策No.	実施事業	施策No.
	●リスクに強い漁業経営と養殖業の安定化・供給力確保	【113】	●リスクに強い漁業経営と養殖業の安定化・供給力確保	【113】
	●『副業的農業』の推進、多様なライフスタイルに応じた就業形態の確立と担い手確保支援	【114, 312】	●専門家（中小企業診断士等）による法人化・事業承継への伴走支援	【113, 114】
	●省人化・スマート化(ICT/AI 導入)支援	【111,113】	●農業相談員等による就農・経営伴走支援および農地マッチングの強化	【114】

		， 114】	●「複業的農業・漁業」の推進、多様なライフスタイルに応じた就業形態の確立と担い手確保支援 ●県等の外部支援（スタートアップ支援等）を活用した新規事業の創出 ●「産業×教育」連携による次世代担い手育成 ●省人化・スマート化（ICT/AI 導入）支援	【113， 114，312】 【111， 113， 114】 【313，314】 【111，113 ， 114】
P9	・「まちじゅうどこでも産直市場」（仮称）の整備により、町内各所での販売機会の創出と販路拡大を図り、一次産業の稼ぐ力を高めます。		・「まちじゅうどこでも産直市場」（仮称）の整備により、町内各所での販売機会の創出と販路拡大を図り、一次産業の稼ぐ力を高めます。 <u>・「海業」や「まちじゅうどこでも産直市場」（仮称）を核に、釣りやレジャーで訪れた皆さんが、そのまま町内の飲食店や商店へ足を運び、南伊勢の魅力を堪能できる「巡って味わう仕組み」を整えます。一過性の観光で終わらせない「町全体でファンをもてなす経済の循環」を創り出し、一次産業の稼ぐ力を高めます。</u>	
P9	●「まちじゅうどこでも産直市場」（仮称）の整備 （その他の取組み）小規模事業者の経営持続化と円滑な事業承継に向けた実効的な支援（施策 111）	【111】	●「まちじゅうどこでも産直市場」（仮称）の整備 ●海業・産直を核とした消費回遊の促進 （その他の取組み）小規模事業者の経営持続化と円滑な事業承継に向けた実効的な支援（施策 111）	【111】 【111，112】
P11	・元気な高齢者が自力で避難できる『体づくり』などソフト対策を推進するとともに、高齢者や子どもが「実際に避		・元気な高齢者が自力で避難できる『体づくり』などソフト対策を推進するとともに、高齢者や子どもが「実際に避	

	難できる」避難路・避難環境の改善を進めます。[中学生提言]			難できる」避難路・避難環境の改善を進めます。[中学生提言] ・お耳の遠い高齢者や障がいのある方も、屋内ランプ等の「目から受ける情報」や「地域の絆」により、誰一人逃げ遅れることなく避難できる体制の整備を目指します。	
P11	実施事業	施策No.		実施事業	施策No.
	●小学校高台移転の推進、避難タワー整備	【211, 313】		●小学校高台移転の推進、避難タワー整備	【211, 313】
				●受け手の特性に応じた多角的な緊急情報伝達体制の整備（屋内ランプ、デジタル技術、地域での安否確認等）	【211】
P16	③多世代による支え合いの仕組み再構築 ・生活支援コーディネーターや集落支援員、地域運営組織等を活用し、地域活動の担い手不足に対応しながら、多世代の支え合いの仕組みを再構築します。			③多世代による支え合いの仕組み再構築 ・生活支援コーディネーターや集落支援員、地域運営組織等を活用し、地域活動の担い手不足に対応しながら、多世代の支え合いの仕組みを再構築します。 ・高齢化に伴う「日々のゴミ出し」や「移動手段の確保」といった日常生活基盤の維持に関しては、単一の担当課の枠組みを超え、関係部局や社会福祉協議会、地域コミュニティ（区長会等）が一体となった「持続可能な生活環境維持・支援体制」を迅速に構築し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境を整えます。	
P10	実施事業	施策No.		実施事業	施策No.
	●集落支援員/地域運営組織の機能強化（見守り・支え合い等）	【511】		●集落支援員/地域運営組織の機能強化（見守り・支え合い等）	【511】

		●日常生活基盤（移動・ゴミ出し等）の維持体制構築	【223, 225, 414】	
P16	（その他の取組み）図書室運営（施策 411）		（その他の取組み）居場所・交流拠点としての図書室活用（施策 411）	
P18	④ゼロカーボンパークの推進と環境・産業が両立する次世代へつなぐ付加価値の創出		④脱炭素・循環型社会の推進と環境・産業が両立する次世代へつなぐ付加価値の創出	
P21	・人口減少、防災対策、インフラ更新等の財政需要を見据え、基金・町債を計画的に活用し、健全性を維持します。		・人口減少、防災対策、インフラ更新等の財政需要を見据え、基金・町債を計画的に活用し、健全性を維持します。 ・人口が 5,000 人規模へと縮小していく未来を見据え、町の「家計構造（財政の見通し）」を分かりやすく提示します。 地方交付税等の仕組みや将来の収支見通しをオープンに共有することで、将来への不安を解消します。限られた財源を最大限に活かし、持続可能な行政経営を維持するための確かな展望を町民と共に構築します。	
P21	実施事業	施策No.	実施事業	施策No.
	●予算の重点化/事業精査	【522】	●予算の重点化/事業精査	【522】
			●町経営の見える化（まちの家計簿の提示）	【522】
P23	●空き家の横断活用	【225】	●空き家の横断活用	【225】
	●補助制度の再編	【521】	●補助制度の再編	【522】
	●未来投資枠（仮称）（検討）	【514】	●未来投資枠（仮称）（検討）	【514】